

札幌市環境プラザ運営協議会

平成26年度第1回実施概要

- 1 日 時 平成26年7月25日(金)午後7時～午後9時
- 2 会 場 札幌エルプラザ公共4施設2階 会議室1・2
- 3 出席者
 - (1) 委 員：内山委員、岡崎委員、川見委員、今委員、渋谷委員、成田委員、宮森委員、高木委員、岩寄委員
 - (2) 札幌市：環境局環境計画課環境教育担当係長、計画係担当
 - (3) 事務局：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会市民参画課長、環境係長、指導員、臨時職員

4 会議次第

- (1) 開 会
- (2) 札幌エルプラザ公共4施設館長のあいさつ
- (3) 運営協議会の経緯について
- (4) 委員の自己紹介
- (5) 座長選出
- (6) 議事 「展示物一部更新について」
- (7) 報告 平成25年度 報告(概要)
平成26年度 計画(中間報告)
- (8) 閉 会

5 議事概要

「環境プラザの展示物一部更新について」

- (1) ハウススタジオ展示物の更新について今までの取り組み(説明)

アンケート

ハウススタジオ アップデートワークショップ

団体からの聞き取り

- (2) 更新にあたって委員からのご意見

・展示物の更新にあたり、すぐに古くなってしまわない内容にするとともに、壊れた場合に環境プラザスタッフで直せるような構造にするとよいと思う。

・展示物そのものよりも誰が説明するかによって展示の作り方は変わってくる。そこで働く職員が説明しやすい展示ができることが一番ではないか。

・ここに来れば自分が調べていること、探究しているテーマの答えになるような資料やネタが見つかるなど、個別の課題学習に対応したものが充実してくると、学校側ももっと利用があるのではないか。例えば、北海道ガスの石狩の施設では携帯ゲーム機端末を使って、自分たちが自分たちのテーマに基づいて周ることがで

きる工夫がされている。加えて、学校の司書のようにこういう本が読みたい、こんな本もお勧めだよという支援が受けられるようなマンパワーが大事な視点になる。

・子ども一人ひとりが探究したい内容やもっと知りたいと思う内容は違う。一斉授業は学校の先生方でできるが、一人ひとりが知りたいことに対応できるとすごくいいと思う。

情報を絞り、環境プラザに行かないとわからない情報があると学校ではありがたい。

・エネルギー分野の強化とあるが、何をどう強化したいのか、どういう情報を提供していきたいのかがわかにくい。省エネや再生可能エネルギーの大切さを知る上で大事なものは、今使っているエネルギーの基になっている化石燃料をはじめとする一次エネルギーについてしっかり理解を深めておくこと。ぜひ、一次エネルギーについて理解を深められる展示を考慮してほしい。

・円山動物園の次世代エネルギーパークに「触(さわ)れる地球」があるように、環境プラザにしかない情報や展示物でその役割を特徴づけてはどうか。また、それをきちんと説明でき、その次のいろいろな「知りたい事」につなげてくれるような人材を育てていくことが大切。解説だけでなく、対話することにより個別対応につながっていくと思う。

・環境プラザでどんなことを伝えていくかは指定管理者が決めるのではなく、札幌市の方針としてあると思う。札幌市として、環境プラザでどんなことをしっかり伝えていきたいと思っているのか。

また、人材育成という点についての札幌市の考えは？（予算の確保という観点からは難しいとは思いますが）

・一口に環境といってもその範疇は非常に広い。環境プラザを設置した当時は、さまざまな環境問題について幅広く見せていこうということだったと思う。3.11の震災により、広い意味でエネルギー問題に光があたり、みんなの関心も高くなっている。市民ニーズとしてどういう声が上がっているかを把握し、その時代その時代のホットな部分に力を入れていくことが求められており、予算もその部分に積極的に充当していくことになる。

人材育成については、個人の自主研鑽の部分という考え方もあり、また、その効果が表面的に見えづらいので、予算の獲得も難しい部分もある。費用対効果を見たときに、行政評価的にも難しい面もある。

・ハードは時間がたてば古くなる。人を育てることでどうカバーするかということだと思う。基本的な要素だけあって、あとは人材がそれをどうおもしろく展開していくか、今の時代に展開していくかで、深みを目指すしかないだろう。

・人材育成について、インタープリテーションで日本でもかなり有名な方がおり、環境プラザだけでなく、環境関連の12施設や環境中間支援会議と一緒に研修する方法もある。

エネルギーの部分に特化すると、札幌のエネルギーについてはここだったら勉強できる、いろいろな情報が引き出せるということになっていくと思う。

また、来た人のニーズに応じて相談対応して、12施設を紹介していくといった結婚式場の紹介所みたいな機能を環境プラザが担えればよいのではないかと思う。

直接、今の議論と無関係であるが、「車と環境」というコーナーでは、車を運転できない子どもたちには代替手段を提供していくべきではないかと思う。札幌市の別セクションでは「札幌らしい交通環境教育」をやっていることや、バスの乗り方を知らない、乗れない子どもたちには、バスの中と同じ模型があって、SAPICA

を実際に使ったり、えきバス navi の使い方がわかるなど、代替手段を提案することが展示の一つの大事なところではないか。

・他の施設とうまく連携してやっていく以外にも、企業や NPO、地域団体などがいろいろな活動をしているので、すべて環境プラザでやろうとせず、そのようなところと連携してやっていただけたらうれしいと思う。

・連携することは重要なポイントである。現在、自前主義から脱却することが社会教育では取り組まれている。今回、連携を視野に入れた意見が多いことは、大切な視点であることの現れである。また、ワークショップでよい成果が上がってきた結果を意味するものと思う。

・ハウススタジオは子どもにとって、非常に大事な枠組みだと思う。水や電気、熱や暖房にかかわること、食料、空気、衣服など、いろいろなものが凝縮されているので、そういうものとおして、外の情報とつながっていけばいいと思う。

・夏休みと冬休みに自分の家でどんなエコな生活ができるか実行する「エコライフレポート」(1)にあるようなことが、子どもの現実の生活とハウススタジオとリンクしているとよい。家では見えないことが、ハウススタジオに来ると見えて、「エコライフレポート」ともつながっていて、自分も実際に家でできるというように、自分の生活と環境プラザの体験が見えないもので結びつくものになるとよいと思う。

・キーポイントは、「この展示を通して、どんな力をつけていけるのか」ではないだろうか。これは大人も子どもも共通することと思う。環境プラザの展示が科学館と異なる点は「生活」に立脚することにあると思う。生活を科学的にすることにあると思う。具体的にいうと、たとえば、「測る」ということなどは生活を科学的にすることの第一歩で、そのことが環境保護につながるものといえる。学校で取り組んでいる「エコライフレポート」をここで検証したり、確認すると楽しくなると思う。

・展示コーナーのリニューアルを考えると、何を狙っていくのかという視点が必要。地球温暖化というものを考えた時に、青少年科学館はそのメカニズムを学ぶところであるのに対して、環境プラザではメカニズムを知った上で、何をすれば温暖化対策になるのか、つまりエコライフな暮らしのために、何をすればよいのかという点を学べるところが違いになるかと思う。

先ほどのお話の中で、「車と環境」というコーナーについては、運転のできない子どもにとっては現実味が薄いようなご意見があったように感じられた。大人への働きかけ方として、子どもの力を使って親を啓発するという観点もあると思うが、その点について皆さんはどうお考えか？

・子どもをとおしての大人の教育という視点はあってよいと思う。

「車と環境」という展示の中で代替手段を提示しないと、例えば、クルマが環境にとって「悪」というところで終わってしまう。

・子どもが喜ぶ姿を親は見たいと思う。子どもに積極的に働きかけ、自分たちの生活が変わっていくことが子どもの喜びになっていくような仕掛けをつくっていく。

代替手段は、車ではなく歩くとどうなるのかとか、自転車にするとどうなるのか、せっかくなのでポロクルを紹介してもいいと思う。

・子ども向けを意識してつくった展示が大人の人にも意外と受け入れやすい。環境プラザでも、子どもを意識したやり方で全く問題ないし、むしろそうすべきだと思う。

今回の議論はハウススタジオの更新についてだったが、これが突貫にならないようにしてほしい。環境プラザ全体としてどうあるべきかを考え、ハウススタジオがどのような位置づけになるのか検討してほしい。札幌市では、まちづくり戦略ビジョンを進めているので、たとえばそれに則って環境プラザを一つのまちや地域にみため、更新していくというやり方もあるのではないか。

・札幌市の副読本とこれらの展示がどうつながっているかも気になっている。

・これから実際に展示物を作り上げていく中で、今までかかわっているいろいろな方々の意見を聴きながら作っていくことも大事なことだと思うので、ぜひそのような過程をとっていただきたい。

・Library of the Year2011 大賞をもらった長野県小布施町の図書館では、トータル 53 回の会議を持つ中でリニューアルして新館を作っていた。そこまではいかないにしても、手間暇かけてつくっていかざるを得ないという感じをお話から伺えた。

・エルプラザになぜ環境プラザがあるのかとは常に確認していきたいと思う。環境問題の解決も市民自治と大きくかかわっている。市民を育てる、市民がここで育っていく、学んでいくという機能は、環境プラザの基本的な役割であろう。子どもたちも、もう一歩進んで次の札幌市民になっていく、札幌市民としての生活スタイルを実践したり、学ぶことが、ここ環境プラザでできたらよいであろう。市民活動サポートセンターの環境関連の NPO の方々と子どもたちが出会い、子どもの意見を大人が聞いていけるようなつながり、そういうことは同じ施設だからこそできるものと思っている。

(1)エコライフレポートは、家庭内で身近にできるエコ行動を記載したチェック表を活用して、子どもたち(小中学生)に対してエコ行動を意識し、実践するよう働きかけていく取り組みで、札幌市が行っている事業です。

http://www.city.sapporo.jp/kankyo/ondanka/ecolife_suishin/sapporo_ecolife_suishin/kodomoecolife.html

以上